

対カンボジア環境プログラム無償資金協力 「森林保全計画」REDDセンター等開所式

5月5日（火）、プノンペンのカンボジア農林水産省森林局REDDセンターに於いて、同省主催「森林保全計画」REDDセンター開所式が開催されました。

我が国は、2009年11月に東京で開催された日・メコン地域首脳会談において「グリーンメコンに向けた10年」イニシアティブを打ち出すなど、カンボジアを含むメコン地域諸国における環境・気候変動分野での協力を重視しており、本計画もこのイニシアティブに基づき行うものです。

森林保全計画は、森林の減少が続くカンボジアにおいて、違法伐採及び違法森林選挙から森林を守るパトロール、植林などカンボジアの森林減少及び劣化への対策を支援するものです。右計画に基づき、カンボジア農林水産省森林局に対して、REDDセンター1棟、デモンストレーション活動本部5棟の各施設が供与されました。同式典には農林水産省森林局関係者をはじめ600名以上が参列しました。

式典では冒頭、隈丸大使が「日本の協力により、温室効果ガスの排出を削減し森林の炭素吸収能力を向上させることによって、カンボジアのREDD+戦略が推進されることを望む。」と述べました。

続いて、マン・アムノット農林水産省長官が、日本国民及び日本政府に対する謝意を述べたうえで、「日本から供与された施設は、農林水産省にとって大きなインパクトを持つものである。森林局は自らの役割を忘れず、本施設を有効活用し、REDD+活動の促進を通じて、違法伐採の防止及び温室効果ガスの削減に向けて努力しなければならない。」と述べました。

その後、隈丸大使とチェサムアン森林副局長は、施設の引渡に関する署名を行い、リボンカットで開所を祝した後、REDDセンター内部の状況を視察するなど、式典は和やかな雰囲気の下に終わりました。



写真-1 隈丸大使のスピーチ



写真-2 施設の引渡の署名



写真-3 リボンカット



写真-4 施設内の視察